

| | |
|---|--|
| 授業改善実践研究校 音楽科 公開研究会 学習指導案 1年1組教室 | <h2 style="text-align: center;">題材名 ねこのなきごえで あそぼう</h2> <p style="text-align: center;"> 日 時：令和5年12月8日(金) 第5校時 指導者：近藤 桜子 児 童：第1学年1組 12名 </p> |
|---|--|

1 題材の構想

(教材曲：「2ひきのねこのゆかいなうた」ピアソル曲)

| | |
|--------------|--|
| 題材の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 声の高さ、長さ、音色などの特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に声の出し方を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。 ○ 声の高さ、長さ、音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得る。 ○ いろいろな声で表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、生活の中の様々な音や音楽に親しむ。 |
| | <p>〔指導事項との関連〕 A 表現 (3) 音楽づくりア (ア) イ (ア) ウ (ア)</p> <p>〔児童の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素〕 音色</p> |
| 題材・教材 | <p>本題材は、声での音遊びを通して、声の高さ、長さ、音色などの特徴に気付いたり、様々な発想を得たりすることをねらっている。</p> <p>ねこは児童にとって身近な動物の一つであり、鳴き声を声で表現しやすい生き物である。ねこの鳴き声を即興的に試したり友達とやり取りしたりする活動を通して、声の高さ、長さ、音色などの特徴について気付き、それらが生み出すよさや面白さを感じ取るとともに、自分が気に入った鳴き声を即興的に選んだりつなげたりすることで新たな発想を得ることができると考える。</p> <p>「2ひきのねこのゆかいなうた」は、ねこの鳴き声だけで歌われる曲であり、鑑賞の活動として位置付けることで、児童に声で音遊びをすることへの興味・関心をもたせるとともに、音遊びの発想を得るための手掛かりとなると考える。</p> |
| 児童の実態 | <p>本学級の児童は、これまでの学習で、打楽器でいろいろな音色を見つけたり、友達と楽器を使った呼びかけっこ遊びをしたりする経験をしてきている。それらの活動を通して、楽器の様々な音色の特徴に気付いたり、即興的に音を選んだりつなげたりして表現したりすることができるようになってきている。しかし、声による音遊びの学習は本題材が初めてである。そのため、本題材でねらう資質・能力の育成に向けて、抵抗感なく声による音楽づくりの楽しさを味わうことのできる手立てが必要であると考え。</p> |
| 目標に向かうための手立て | <p>○子供たちが見方・考え方を働かせ、学習の手掛かりとなる常時活動や音楽ゲームの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 声の高さ、長さ、音色などの特徴と様子や気持ちの関わりに気付き、楽しく表現することができるよう、「こげよマイケル」の曲を「かわいい声」「悲しい声」などで歌う活動を行う。 ・ 様々なねこの鳴き声を試す活動について、児童が抵抗感なく意欲的に取り組むことができるよう、拍に合わせて動物の名前と鳴き声を交互に唱える活動(鳴き声リレー)を取り入れる。 <p>○生き生きと学び合う場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童がねこの鳴き声の発想を得やすいよう、「けんかをしている」「甘えている」などの条件を設定する。また、より一層音楽づくりの発想を得ることができるよう、いろいろな友達と即興的に試す場面や、ペアを固定して試行錯誤して試す場面を設定する。 ・ 友達の表現のよさや面白さを、実感を伴って共有することができるように、友達の表現を模倣する。 <p>○ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なねこの鳴き声やその特徴に気付くことができるよう、様々なねこの鳴き声の動画を視聴する。 |

2 題材の評価規準（評価方法）

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------|--|--|---|
| 知 | 声の高さ、長さ、音色などの特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。 (発言) | 思 声の高さ、長さ、音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得ている。 (発言・聴取) | 態 いろいろな声で表現することに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に学習活動に取り組もうとしている。 (行動観察・記述) |
| 技 | 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に声を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。 (演奏の聴取) | | |

3 指導と評価の計画（3時間）

□・・・全員の学習状況を記録に残す場面

| 時 | ○学習内容 ・学習活動 | 知・技 | 思 | 態 | 主な指導・支援の手だて |
|-------------|---|----------|----------|---|---|
| 第1時 | <p>【常時活動】 「こげよマイケル」 「すずめがちゅん」</p> <p>【めあて】 いろいろなねこのなきごえを あつめよう。</p> <p>○ ねこの鳴き声を見つけたり試したりする活動を通して、様々な鳴き声の特徴に気付く。 ・ ねこの動画を視聴し、いろいろな鳴き声を見つける。 ・ 見つけた鳴き声のねこの様子や気持ちを想像する。 ・ 見つけた鳴き声を試す。 ・ 代表の子対全体、二人組で模倣し合うなどして、いろいろな鳴き声を試す。</p> <p>○ 「2ひきの ねこの ゆかいなうた」を聴き、ねこの鳴き声で音楽ができることに気付く。</p> | 知 | | | <p>○ 発表したねこの鳴き声を黒板に図形楽譜で表し、音高や強弱、音色の要素や想像した猫の様子を言葉で板書する。</p> <p>○ 声の高さや長さ、音色などを変えてねこのなき声を試す活動を通して、それらが生み出す面白さに気付かせる。</p> <p>○ 同じ曲でも表現の仕方が違うことに気付くことができるよう、場面設定の違う2曲を聴く。</p> |
| 第2時 (本時) | <p>【常時活動】 「すずめがちゅん」 「鳴き声リレー」</p> <p>○ ペアでねこの鳴き声で音遊びをする。</p> <p>【めあて】 ねこのなきごえで おはなしして あそぼう。</p> <p>○ けんかをしているねこを想像しながら、様々なペアで即興的に表現し、音楽づくりの発想を得る。 ・ 様々なペアで、様々なねこの鳴き声を試す。 ・ 友達の発表を聴き合い、模倣して実感を伴って共有したり、新たな発想を得たりする。</p> <p>○ 甘えているねこを想像しながら、ペアを固定して何度も試し、音楽づくりの発想を得る。</p> | | 思 | | <p>○ いろいろなペアで即興的に表現し、様々な鳴き声の発想を得られるようにする。</p> <p>○ 発表したねこの鳴き声を黒板に図形楽譜で表し、音高や強弱、音色の要素を言葉で板書する。また、どこからそのように感じたのか、児童の発言を板書する。</p> <p>○ 児童の表現の変容を捉えて価値付け、共有する。</p> |

| | | | | |
|-------------|---|---|---|---|
| 第 3 時 | <p>【常時活動】</p> <p>「すずめがちゅん」 「ねこのなきごえでお話」</p> <p>○ グループでねこの鳴き声で音遊びをする。</p> | 技 | 態 | <p>○ 前時までの学習を想起できるように、板書を電子黒板で提示する。また、録音した鳴き声を聴き、真似したり変えてみたりするよう助言する。</p> <p>○ 友達の実現を模倣し、友達の表現のよさや面白さを共有できるようにする。</p> |
| | <p>【めあて】グループでねこのなきごえでおはなしして あそぼう。</p> <p>○ 複数のねこが活動している様子を想定し、前時までに得た発想を生かしながら、グループで即興的に表現し、音楽づくりの発想を得る。</p> <p>○ 各グループで「すずめがちゅん」の歌に合わせて発表し、友達の表現を聴き合う。</p> | | | |

4 本時の目標 様々な声の出し方（音色）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、ねこの鳴き声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得る。

5 本時の展開（2/3時間）

| 学習活動 | 教師の働きかけ (指示・説明・発問) 予想される児童の姿(・) | 教師の支援(○) 個への支援(※) | 評価(☆) (評価方法) |
|------------------------------|---|--|-----------------|
| 1 前時までの学習を想起する。 | <p>常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「すずめがちゅん」 ・ ねこの鳴き声リレー | <p>○ どの児童も抵抗なくねこの鳴き声を工夫して表現できるよう常時活動を行い、表現することがより一層楽しくなるような雰囲気づくりをする。</p> <p>○ 自信をもってできるように、リレーを行う前に、鳴き声を試す時間を設ける。</p> | |
| 2 めあてを確認する。 | <p>○ 今日は、ねこの鳴き声でお話してみましよう。</p> | | |
| <p>ねこのなきごえで おはなしして あそぼう。</p> | | | |
| 3 けんかをしているねこの鳴き声でお話をする。 | <p>○ けんかをしているようにお話してみましよう。どうしたらいいかな。</p> <p>○ 「ニャーオ」の鳴き方を変えて、ペアでお話をましよう。その時に、ねこの鳴き声の高さや強さ、長さを変えて、けんかをしているときのねこの鳴き声を、いろいろ試してみましよう。</p> | <p>○ 音遊びの流れをつかむことができるように、手本を示しながら説明する。</p> <p>○ 声の高さや強さ、長さを、実際に声に表して確認する。</p> | |

| | | | |
|------------------------------|--|---|--|
| <p>4 甘えているねこの鳴き声でお話しをする。</p> | <p>う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【設定した条件1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ニャーオ」だけで会話する。 ・ 2往復会話する。 ・ 声の高さや強さ、長さを変える。 </div> <p>○ 先生がねこの鳴き声でお話をしてみます。どういう風に鳴いているか聴いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低い声。 ・ 声がだんだん上がっている。 <p>○ 音楽が鳴っているときにペアを探して、見つけた友達とお話ししましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくは、低い声でなくと、高い声で鳴くよりも怒った感じがするな。 ・ 次の友達の時は、長さを変えて鳴いてみよう。 <p>○ 友達の鳴き声を聴いてみましょう。どのようなところから、怒ったように感じたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強く短く鳴いていたところが、怒っているような感じがする。 ・ 低い声で伸ばしているところが、今にも飛びかかっていきそう。 <p>○ 友達の発表を試してみましょう。新しいアイデアが浮かんだら、ペアの人に紹介してやってみましょう。</p> <p>○ 次は、隣の人と甘えているねこの鳴き声でお話ししましょう。</p> | <p>○ いろいろなペアと試す機会を設定し、様々な鳴き声の発想を得られるようにする。</p> <p>※ 表現することが難しい児童には、体を動かしてお話をするように助言する。</p> <p>○ 児童の表現の工夫や変容を捉えて価値付け、全体で共有する。</p> <p>○ 発表したねこの鳴き声を黒板に図形楽譜で表し、音高や強弱、音色の要素を言葉で板書する。また、どこからどのように感じたのか、児童の発言も板書する。</p> <p>○ 友達の表現のよさや面白さを実感し、そこから得た新たな発想を試すことができるように、取り組ませる。</p> | <p>【思】 声の高さ、長さ、音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き</p> |
|------------------------------|--|---|--|

| | | | |
|-------------------|--|---|---|
| <p>5 学習を振り返る。</p> | <p>【設定した条件2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣の人と会話する。 ・ 「ニャーオ」だけで会話する。 ・ 2往復を何度も繰り返す。 ・ 声の高さや強さ、長さを変える。 <p>○ 友達の鳴き声を聴いてみましょう。どのようなところから、甘えたように感じたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 声を高くすると楽しい感じになった。 ・ おこった時の声と違う。 <p>○ 友達の発表を試してみましょう。新しいアイデアが浮かんだら、ペアの人に紹介してやってみましょう。</p> <p>○ ねこの鳴き声で友達とお話ししてみて、思ったことや気付いたことを発表しましょう。</p> | <p>○ 児童の表現の工夫や変容を捉えて価値付け、全体で共有する。</p> <p>○ 友達の発表から得た新たな発想を何度も試すことができるように、ペアは変えずに取り組ませる。</p> <p>○ 学習を振り返り、即興的に様々なお話の仕方や、発想を得ていた場面を想起し、価値づける。</p> | <p>取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得ている。 (発言・聴取)</p> |
|-------------------|--|---|---|

6 本時の板書

